

関係機関・団体長
病害虫防除員
農薬管理指導士 } 様

山口県病害虫防除所長

イネ縞葉枯病及びヒメトビウンカの発生状況と防除対策 (技術資料第 5 号) について

このことについて、下記のとおり送付しますので防除指導の参考にしてください。

記

1 発生状況

- (1) 7月9日～11日の巡回調査では、イネ縞葉枯病の発生ほ場率は7.0% (平年0%)、発病株率は0.5% (平年0%)で平年に比べ多かった。
- (2) イネ縞葉枯ウイルスを媒介するヒメトビウンカの発生ほ場率は37.2% (平年25.8%)、10株当たり発生頭数は1.9頭 (平年0.4頭)で平年に比べ多かった。
- (3) 県内でのイネ縞葉枯病の発生は県中西部で多かった (図)。

2 今後の予想

- (1) 発生地域 県内全域 (特に県中西部)
- (2) 発生量 イネ縞葉枯病 多
- (3) 今後の予想
 - ア 8月中旬以降に出穂するヒノヒカリ等中生種 (今後幼穂形成期を迎える作型) イネ縞葉枯病及びヒメトビウンカの発生が多いことから保毒した虫がウイルスを媒介し今後もイネ縞葉枯病が多くなると推測される。
 - イ 8月上旬までに出穂するコシヒカリ等極早生種 (既に幼穂形成期を迎えた作型) 今後、ウイルスに感染しても被害は拡大しにくいと考えられる。

3 防除対策

- (1) 8月中旬以降に出穂するヒノヒカリ等中生種 (今後幼穂形成期を迎える作型) 箱施用剤で防除を行っていないほ場で、近隣ほ場を含めほ場内でイネ縞葉枯病が散見される場合はウンカ類に登録のある農薬で防除を実施する。
- (2) 8月上旬までに出穂するコシヒカリ等極早生種 (既に幼穂形成期を迎えた作型) 本年度のヒメトビウンカの防除対策は必要ない。

4 その他 (発生の要因等)

- (1) 6月上旬に長門市油谷のネットトラップでヒメトビウンカが多数捕獲された。
- (2) 6月上旬に県内3か所のネットトラップで、また6月中下旬に水稻ほ場で捕獲したヒメトビウンカのイネ縞葉枯病保毒虫率は11.5%であり、中国大陸から飛来した虫のイネ縞葉枯病保毒虫率は高かったと考えられる。

(参考) イネ縞葉枯病とは (写真参照)

ヒメトビウンカが媒介するイネ縞葉枯ウイルス (Rice stripe virus: RSV) が病原ウイルスで、本田初期から新葉が黄白色となりこより状に巻いて垂れる (ゆうれい症状)。葉には黄～黄緑色の縦縞模様が認められることが多い。RSVはヒメトビウンカで経卵伝染する。

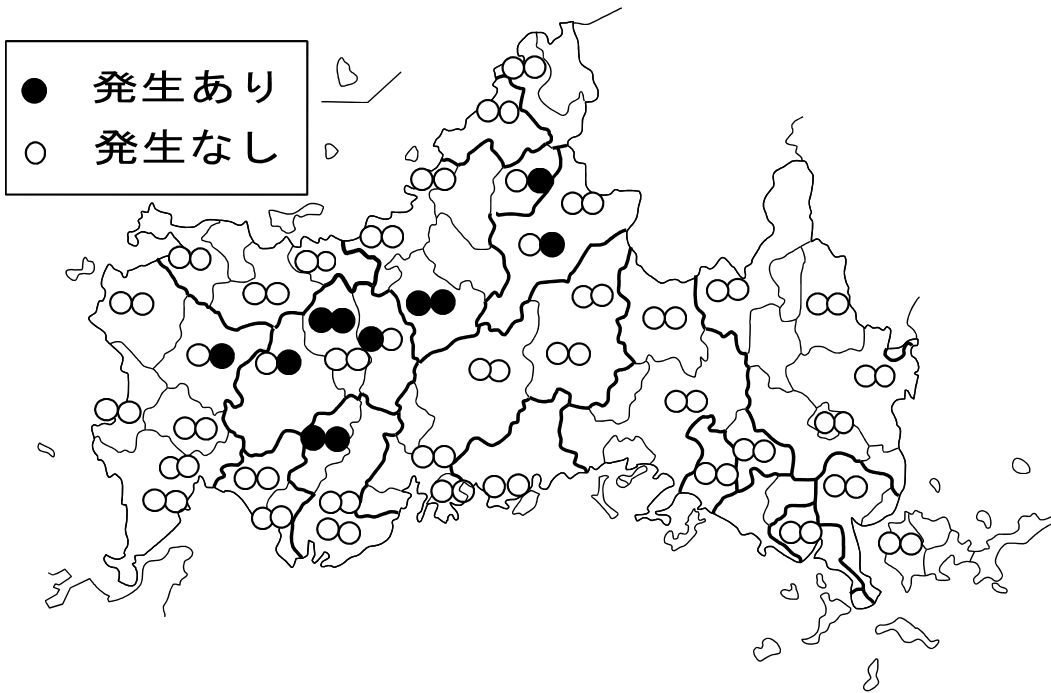


図 イネ縞葉枯病の発生状況（7月9日～11日調査）



写真 イネ縞葉枯病発病株

参考 ウンカ類幼虫の見分け方

項目	セジロウンカ	ヒメトビウンカ	トビイロウンカ
体形	紡錘形（長い菱型） （頭頂は狭く尖る）	長楕円形	紡錘形
体色 ふ化直後 中・老齢	淡黒色 乳白色～黒褐色	灰色 淡黄色～橙黄色 ～暗黒色 体側の色が濃い	淡い暗黒色 淡褐色・黄褐色 ～黒褐色 * 3令以降は 脂ぎった感じ
水面上の 後脚の形	真横に広げる	後にななめに 広げる	真横～ややななめに 広げる
	